

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 公安委員長挨拶

「前回の会議の冒頭で『トップの判断の難しさ』について話した。あれ以降もコロナの状況は厳しく、各県知事どころか各市町村のトップにも判断を委ねられることが多いのを見聞きしていて、私が教員になったときの講演会で聞いた『教師は5者たれ』という言葉思い出した。昭和63年ごろから使われ始め、『教師5者論』とも言われているようだ。この言葉は、教師は教壇に立ち子どもたちに教えるだけでなく、5つの仕事・視点を持たないといけないということを示している。

5つのうち1つ目は『教師は学者たれ』で、豊富な知識を持つことである。2つ目は『教師は役者たれ』で、役者のように振る舞って子どもたちとの信頼関係を作っていくことである。3つ目は『教師は芸者たれ』で、芸者が客を喜ばすように子どもたちを励まし、やる気にさせることである。4つ目は『教師は易者たれ』で、最新の情報を得て未来を読むことである。5つ目は『教師は医者たれ』で、精神的にも身体的にも子どもたちをフォローすることである。教師はこの5つの『者』になって教壇に立ち、子どもたちへの対応をしていくべきとの話を聞かせていただいた。

この言葉は、私が教員から行政を経て管理職になったとき、リーダーにも通ずることであるなと感じた。教職員を子どもに例えると、部下をこの5者になってマネジメントすることがあるということである。

公安委員会の仕事をさせていただいて間もなく3年が終わろうとしている。この仕事をしながら、私はこの5者になっていろいろ考えていたと思う。皆さんには教育の話をするが多かったが、視点としては、警察の立場だったらどうするのかと常に考えていた。コロナ問題で、首相が医師からの意見と政治経済を回していくこととの間で非常に難しい判断を迫られているが、同時に複数の『者』になることを求められるのがトップであると思う。

私も、残る任期を警察活動への旗振り役をしつつ、ときには違う視点から意見を述べ、頑張っていきたい。」旨の発言があった。

2 議題

警察職員等の援助要求

警察本部

警察職員等の援助要求について説明があり、原案のとおり決定し

た。

3 報告

警 察 本 部

(1) 大型連休期間中における随時監察実施結果

監察実施結果について報告があった。

警 察 本 部

(2) 苦情の取扱状況（4月）

苦情の取扱状況（4月）について報告があった。

警 察 本 部

(3) 聖火リレー警備実施結果

聖火リレー警備実施結果について報告があった。

5 総括

本 部 長

「聖火リレー警備の伴走部隊には、二日間にわたり、沿道の皆様
がずっと見ておられるという環境下で頑張ってもらった。

先般、委員にも言及していただいたが、5月19日に警衛対策課の
体制を縮小した。平成30年に準備室を立ち上げてから、長くは数年
にわたり従事してきた職員もいる。オンライン行幸啓となったが、
陛下がお出ましになるという前提で計画書も完成した。関係職員に
はよくやってもらったと思っている。今月末の警備もしっかりやっ
てまいりたい。」旨の発言があった。